

令和8年度

子どもの関わりに関する基本方針

— 小さな変化に気づき、子どもたちの安心を大切にします —



令和8年4月1日

目次

1. 本園の考え方	2
2. いじめの捉え方	2
3. 日常の取組	2
4. 対応の基本	3
5. おわりに	3



1. 本園の考え方

幼児期には、友達同士の関わりの中で、言い合いや行き違いが生じることがあります。

その中で、

- ・特定の園児に言葉や行動が集中する
- ・仲間に入りにくい状態が続く

といった様子が見られることがあります。

本園では、いじめかどうかの判断にとどまらず、**こうした関係の偏りそのものを大切なサインとして捉え、早い段階で丁寧に対応することを重視します。**

すべての園児が安心して園生活を送り、互いを大切にできる環境づくりに努めます。

2. いじめの捉え方

本園では、いじめを「園児がつらい気持ちになる関わり」として捉えます。

また、幼児期の特性として、本人にいじめの自覚がないまま関係の偏りが生じることがあることを踏まえ、**いじめと認定される前の段階から関係を見守り、必要に応じて対応します。**

3. 日常の取組

本園では、日々の保育の中で次の点を大切にしています。

- ・園児同士の関係づくり
- ・教職員による丁寧な観察
- ・教職員間での情報共有
- ・保護者との連携

また、次のような場面においても、園児同士の関係に留意しています。

- ・自由遊びの時間
- ・預かり保育
- ・通園時や降園時
- ・異年齢での関わり

4. 対応の基本

気になる様子が見られた場合には、

- ・担任のみで判断せず、教職員間で共有する
- ・園児の気持ちに寄り添いながら関係を整える
- ・必要に応じて保護者と連携する

ことを基本とします。

また、本園では、必要に応じて教職員で状況を共有し、**園として対応方針を検討することを大切にしています。**

5. おわりに

本園では、子どもたち一人ひとりを大切にし、安心して過ごせる環境づくりに努めてまいります。





Shijonawate Gakuen Kindergarten

